

暫定期間計画業務参考書類二十二

資金 G 三二三二一號

計画編成設定上燃料ニ關スル事項（第二回策）

昭和六年四月九日

参考文書 G 二二〇號 G 四一六號

資源開拓企劃部

希望 本案ニ付テハ四月十四日頃迄ニ御研究相頼體度

（備考）各資源ノ配當及補填計畫設定ニ關シ手續及計畫事項ノ概要等ニ付テハ庶務要綱、處務規程、指示事項ニ依リ示サレアルモ、愈々進ンデ實際上如何ニ計畫スペキカニ利テハ未ダ何等據ルベキモノナキヲ以テ茲ニ豫想シ得ル限りニ於テ計畫設定ノ製領ヲ認シ以テ計畫擔任者ノ参考ニ供セントス

（註）以下説明中略符トシテ左記符字ヲ用フ

W 一一一 需給對照

X 一一一 配當計畫

Y 一一一 補填計畫

Z 一一一 管制計畫

資源番號 資源名

記 要

二六

燃料

燃料は特ナハ豊富ヘキ及蘿蔓ヨリノミナラズ管能

(Z)ニ勝チテヨリ比較的詳細ナル結果ヲ般定セントス

トス

X 必要ニ應ジ真ノ用途ヲ表示シ又代用品ノ種類及
數額ヲ示ス

石炭

W 一 各小分類ニ付行フモ特ニ無煙炭ノ指定ナク雖

二 石炭トシテ調査セル需要額ハ濃青炭ヘ〇二

ニ包含セシム

Y 二 一般需要額ニハ該炭原料ニ關シ考慮ス

Y 労メテ國內增産ニ依リ、若シ外國資源ノ利用ヲ
必要トスル場合ニ於テモ取得見込確質ナル隣邦ヨ

リス

Z 一 移動及輸送ニ際シ石炭全體ヲ一括シテ大要ノ
計書ヲ作成ス

石炭ハ戰勝ニ在リテモ國内運輸貨物中其ノ首位ヲ占ムルモノナルベク從ツテ之ガ移動ノ規正及輪送ノ運能ハ國內輸送能力ノ能率發揮上特ニ著應ニ至スベク鐵道、船舶及港灣ニ際スル計略ト相俟ツテ之ヲ實現セントス

乙二 又石炭ハ坡面ニ於テハ比較的多量ニ輸出スト雖モ收賛額又多大ニ上ルベク增産所要額ヲ努力メテ少カラシムル爲一般ニ合理的使用及消費節約ニ關シ考慮ヲ要スベク更ニ勵力原料トシテ電力ト相輔導シテ考慮ヲ擴スベシ

必要ニ應ジ產地ヲ指示ス

Z 國內增產ニ依ル
Y 作成セズ

○三

○一

無煙
炭

○二

瀝青
炭

○四

核
炭

石
油

石油ニ關シテハ其ノ特殊ナル重要性ニ鑑ミ殊ニYニ

0498

| ○二重 油 | Y W | Z 二 原油ノ處理能力ニ關スル詳報—輕油、燈油、揮發油及機械油ノ生產ニ關シ綜合シテ詳報ス | 乙 一 軍油ト併セテ左記事項ニ付特ニ考慮ヲ要ス イ 貯藏力—現在貯藏力、開戦前ニ於ケル増加 ロ 輸送力—油槽船（四二〇一〇四）ト相關聯 シテ詳報ス |
|--------------------------|--|--|--|
| Y 一 原油ヨリスル國內生產ハ輕油、燈油、揮發油 | W 重油ノ需要額ハ直接需要額ノキトス、全生產力ニ關シテハ輕油等ト併セ考慮スルモノトス | Z 二 原油ノ處理能力ニ關スル詳報—輕油、燈油、揮發油及機械油ノ生產ニ關シ綜合シテ詳報ス | 乙 一 軍油ト併セテ左記事項ニ付特ニ考慮ヲ要ス イ 貯藏力—現在貯藏力、開戦前ニ於ケル増加 ロ 輸送力—油槽船（四二〇一〇四）ト相關聯 シテ詳報ス |

及機械油ノ生産ニ付アセノヲ限廻トス

二 貨岩油代用

三 其ノ他ハ凡テ輸入ニ依ル、輸入ニ蘇シテハ原

油ト併セサセス

乙 一 勘察及轉送ニ蘇シテハ原油ト併セサセス

二 使用制限ニ附シ考慮ス

○三 輕
○四 燈
○五 振
○六 機
○七 機
○八 油

名資源ニ付現存額一代用品ヲモ併セ考慮ス、
控除シタルモノニ生産所要額、
力需要額ヲ算定シ之ヲ全生產力即チ現存工場一
當セラレタルモノノ精油能力ト對比シテ精油能
力ニ付補填所要額ヲ定ムルモノトス、此際比較的
多量ニ生産スペキ以外ノ油ハ必要以上ニ生産サル
ルコトナルモ已ムヲ得ザルベシ又補填所要額
性質即チ輸入先ニ付テ考慮ヲ要スベク此點原油ノ

二六〇四

○三輕油

○四燈油
○五揮發油
○六機械油

輸入計體ト翻轉シテ考慮スルモノトア润滑油ニ當
リ併セ生産サルル重油ハ其ノW及Yニ於テ考慮サ
ルモノトス

X
Y
各資源ニ付作成ス荷理存續及全生產力ガ何ノ程
度マデ各勝能時需要額ヲ充足スルヤツ検討ス
一
二
精油能力ニ關シテハ各別ニ計量ス